

AD3

LOW-IRRITANT SOLID DETERGENT

Patent number: JP11323378
Publication date: 1999-11-26
Inventor: KANEKO DAISUKE; OGAWA MASUMI
Applicant: AJINOMOTO KK
Classification:
- **international:** C11D1/10; C11D1/14; C11D1/28; C11D3/18; C11D17/00
- **european:**
Application number: JP19980129003 19980512
Priority number(s): JP19980129003 19980512

Report a data error here

Abstract of **JP11323378**

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a solid detergent compsn. which has low irritation and excellent solid properties, is less likely to cause dissolution disintegration and is less likely to cause cracking even under low humidity. **SOLUTION:** This solid detergent compsn. comprises the following components (A) and (B), or alternatively comprises the following component (C) in addition to the components (A) and (B): (A) at least one anionic surfactant selected from salts of N-acylamino acid, salts of acylisethionic acid, and salts of alkylsulfosuccinic acids; (B) at least one solid wax having an m.p. of 40 to 120 deg.C; and (C) at least one compd. selected from acidic amino acids and salts thereof.

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

THIS PAGE BLANK (USPTO)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-323378

(43) 公開日 平成11年(1999)11月26日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	F I
C 1 1 D 1/10		C 1 1 D 1/10
1/14		1/14
1/28		1/28
3/18		3/18
17/00		17/00
審査請求 未請求 請求項の数12 O L (全 6 頁)		

(21) 出願番号	特願平10-129003	(71) 出願人	000000066 味の素株式会社 東京都中央区京橋1丁目15番1号
(22) 出願日	平成10年(1998)5月12日	(72) 発明者	金子 大介 神奈川県川崎市川崎区鈴木町1-1 味の素株式会社中央研究所内
		(72) 発明者	小川 真澄 神奈川県川崎市川崎区鈴木町1-1 味の素株式会社中央研究所内
		(74) 代理人	弁理士 田中 政浩

(54) 【発明の名称】 低刺激性固形洗浄剤

(57) 【要約】

【課題】 低刺激性で、固形性に優れ、溶け崩れが起こりにくい固形洗浄剤組成物、更には低湿度下でもひび割れが生じにくい固形洗浄剤組成物を提供する。

【解決手段】 次の成分(A)及び(B)を含有する固形洗浄剤組成物、並びに成分(A)、(B)に加え、更に成分(C)を含有する固形洗浄剤組成物。

(A) N-アシルアミノ酸塩、アシルイセチオン酸塩及びアルキルスルホコハク酸塩から選ばれるアニオン界面活性剤の1種又は2種以上

(B) 融点が40℃～120℃の固形ワックスの1種又は2種以上

(C) 酸性アミノ酸及びその塩から選ばれる1種又は2種以上

【特許請求の範囲】

【請求項1】 次の成分(A)及び(B)を含有することを特徴とする固形洗浄剤組成物。

(A) N-アシルアミノ酸塩、アシルイセチオン酸塩及びアルキルスルホコハク酸塩から選ばれたアニオン界面活性剤の1種又は2種以上

(B) 融点が40℃～120℃の固形ワックスの1種又は2種以上

【請求項2】 成分(A)、(B)に加え、更に(C) 酸性アミノ酸及びその塩から選ばれた1種又は2種以上を含有する請求項1記載の固形洗浄剤組成物。

【請求項3】 成分(A)のアニオン界面活性剤がN-アシルアミノ酸塩である請求項1乃至2記載の固形洗浄剤組成物。

【請求項4】 N-アシルアミノ酸塩がN-アシルグリシン塩、N-アシルアラニン塩、N-アシル-β-アラニン塩、N-アシル-N-メチル-β-アラニン塩、N-アシルメチルタウリン塩及びN-アシルグルタミン酸塩から選ばれたものである請求項1乃至3記載の固形洗浄剤組成物。

【請求項5】 N-アシルアミノ酸塩がN-アシルグリシン塩及びN-アシルアラニン塩から選ばれたものである請求項1乃至3記載の固形洗浄剤組成物。

【請求項6】 アニオン界面活性剤の塩がナトリウム塩、カリウム塩、マグネシウム塩、アルギニン塩、リジン塩及びヒスチジン塩から選ばれたものである請求項1乃至5記載の固形洗浄剤組成物。

【請求項7】 アニオン界面活性剤の塩がナトリウム塩である請求項1乃至5記載の固形洗浄剤組成物。

【請求項8】 成分(A)のアニオン界面活性剤のアシル基又はアルキル基が炭素原子数10～20の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和のアシル基又はアルキル基である請求項1乃至7記載の固形洗浄剤組成物。

【請求項9】 成分(C)の酸性アミノ酸塩がグルタミン酸塩及びアスパラギン酸塩から選ばれたものである請求項2記載の固形洗浄剤組成物。

【請求項10】 pHが5.5～7.0である請求項1又は2記載の固形洗浄剤組成物。

【請求項11】 固形洗浄剤組成物中、成分(A)の配合量が30～95重量%(但し、未中和のN-アシルアミノ酸を含む)、成分(B)の配合量が2～20重量%である請求項1記載の固形洗浄剤組成物。

【請求項12】 固形洗浄剤組成物中、成分(A)の配合量が30～95重量%(但し、未中和のN-アシルアミノ酸を含む)、成分(B)の配合量が2～20重量%、成分(C)の配合量が1～40重量%である請求項2記載の固形洗浄剤組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は固形洗浄剤組成物に

関し、更に詳しくは低刺激性で固形性に優れ、溶け崩れしにくく、また低湿度下でもひび割れが起こりにくい固形洗浄剤組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】固形洗浄剤組成物は、一般にアニオン界面活性剤を主成分としており、高級脂肪酸塩が最も汎用的に使用されている。高級脂肪酸塩は泡立ちには優れているものの、pHがアルカリ性であるため、皮膚に対する刺激性が高く、またすすぎ時にきしみ感やつっぱり感を生じるといった問題点があった。

【0003】低刺激性の固形洗浄剤組成物としては、アシルイセチオン酸塩、アルキルスルホコハク酸塩、N-アシルグルタミン酸塩、N-アシル-β-アラニン塩等を主基材としたものが知られている。これらのアニオン界面活性剤は皮膚に温和な中性～弱酸性領域においても泡立ちが良好である。しかしながら、これらのアニオン界面活性剤を主基材として用いて固形洗浄剤組成物を調製した場合、高級脂肪酸塩に比べ、固形性が保ちにくく、成型が困難となるなどの問題があった。また使用の際、溶け崩れが起こりやすい傾向にあった。

【0004】溶け崩れ性を改善する方法としては、N-アシルグルタミン酸塩、N-アシル-β-アラニン塩を主基材とする固形洗浄剤において、高級脂肪酸や高級アルコールを添加する方法等(特開平5-156298号公報)が知られているが、その効果は十分なものでなく、更なる改善が求められていた。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】本発明の目的は低刺激性で、固形性に優れ、溶け崩れが起こりにくい固形洗浄剤組成物を提供することにある。

【0006】本発明の他の目的は上記の特性に加え、低湿度下でもひび割れが生じにくい固形洗浄剤組成物を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明者はかかる実情に鑑み鋭意研究した結果、特定の低刺激性のアニオン界面活性剤と固形油脂とを組み合わせることで、低刺激性で固形性に優れ、溶け崩れしにくい固形洗浄剤組成物が得られること、そしてこれら2成分に加え、更に酸性アミノ酸又はその塩を配合することにより、低湿度下におけるひび割れが生じにくい固形洗浄剤組成物となることを見だし、本発明を完成した。

【0008】即ち、本発明は、次の成分(A)及び(B)

(A) N-アシルアミノ酸塩、アシルイセチオン酸塩及びアルキルスルホコハク酸塩から選ばれるアニオン界面活性剤の1種又は2種以上

(B) 融点が40℃～120℃の固形ワックスの1種又は2種以上を含有することを特徴とする固形洗浄剤組成物、並びに上記(A)及び(B)の2成分に、更に次の

成分(C)

(C) 酸性アミノ酸及びその塩から選ばれる1種もしくは2種以上を含有することを特徴とする固形洗浄剤組成物である。

【0009】

【発明の実施の形態】本発明に用いられる(A)成分のアニオン界面活性剤はN-アシルアミノ酸塩、アシルイセチオン酸塩及びアルキルスルホコハク酸塩から選ばれる。これらのアニオン界面活性剤は夫々単独で用いてもよく、2種以上を任意の割合で混合して用いてもよい。これらのアニオン界面活性剤は高級脂肪酸塩と異なり、皮膚に対して低刺激性であり、また、すすぎの際の皮膚のきしみ感や乾燥後の皮膚のつっぱり感も小さいものである。

【0010】これらのアニオン性界面活性剤のうち、低刺激性の観点からN-アシルアミノ酸塩がより好ましい。

【0011】N-アシルアミノ酸塩としては、N-アシルグリシン塩、N-アシルアラニン塩、N-アシル-β-アラニン塩、N-アシルスレオニン塩、N-アシルバリン塩、N-アシルロイシン塩、N-アシルイソロニン塩、N-アシルセリン塩、N-アシルタウリン塩等のN-アシル中性アミノ酸塩、N-アシルグルタミン酸塩、N-アシルアスパラギン酸塩等のN-アシル酸性アミノ酸塩、N-アシル-N-メチル-β-アラニン塩、N-アシル-N-メチルタウリン塩、N-アシルザルコシン等のN-アシル-N-アルキルアミノ酸塩等が挙げられる。これらのN-アシルアミノ酸塩はD体、L体およびDL体のいずれも使用することができる。

【0012】上記のN-アシルアミノ酸塩のうち、N-アシルグリシン塩、N-アシルアラニン塩、N-アシル-β-アラニン塩、N-アシル-N-メチル-β-アラニン塩、N-アシル-N-メチルタウリン塩、N-アシルグルタミン酸塩、N-アシルアスパラギン酸塩が好適に用いられる。このうち、特にN-アシルグリシン塩、N-アシルアラニン塩、N-アシル-β-アラニン塩、N-アシルグルタミン酸塩、N-アシルアスパラギン酸塩が、低刺激性により優れており好ましい。

【0013】更に、固形性の観点から、N-アシルグリシン塩、N-アシルアラニン塩、N-アシル-β-アラニン塩、N-アシルグルタミン酸塩がより好ましい。また洗浄時の泡の粘り・こしが良好で、ぬめり感が小さく、さっぱりした感触を有することからN-アシルグリシン塩、N-アシルアラニン塩、N-アシル-β-アラニン塩が好ましく、N-アシルグリシン塩、N-アシルアラニン塩がより好ましい。上記の使用感及び固形性の点で特にN-アシルグリシン塩が最も優れている。

【0014】本発明における成分(A)のアニオン界面活性剤のアシル基又はアルキル基としては、通常炭素原子数10~20の直鎖または分岐鎖の飽和または不飽和

のアシル基又はアルキル基が用いられるが、特に炭素原子数10~18アシル基又はアルキル基が好ましい。アシル基又はアルキル基の鎖長が短かすぎると固形性が保ちにくくなり、溶け崩れ及び低湿度下でのひび割れ傾向が強くなり、更に炭素原子数10未満では泡立ちが低下する。一方、アシル基又はアルキル基の鎖長が長すぎると泡質が低下し、使用感が落ちる場合がある。例えば、本発明において特に好ましいN-アシルグリシン塩、N-アシルアラニン塩においては、泡の粘り・こし、さっぱり感等の観点から炭素原子数が10~14のアシル基を有するものが特に好ましい。これらのものは使用感の点で非常に優れているものの固形性に劣るという問題点がある。しかしながら、本発明のように固形ワックスを用いることにより、これらの特性を生かしつつ、優れた固形性を有し、更には溶け崩れの起こりにくい固形洗浄剤組成物を調製することが可能となる。

【0015】アシル基又はアルキル基の炭素原子数が10~20以外のN-アシルアミノ酸塩、アシルイセチオン酸塩又はアルキルスルホコハク酸塩が含まれていてもよい。本発明の効果を十分に発揮する上で、通常はアニオン界面活性剤全量に対して30重量%未満であり、好ましくは20重量%未満、更に好ましくは10重量%未満、特に好ましくは5重量%未満である。

【0016】本発明における成分(A)のアニオン界面活性剤の塩としてはナトリウム塩、カリウム塩、マグネシウム塩等の金属塩、アルギニン塩、リジン塩、ヒスチジン塩等の有機塩を挙げることができる。固形性に優れたものを得る上で、ナトリウム塩、カリウム塩、アルギニン塩が好ましく、特にナトリウム塩が最も好ましい。またこれらの塩は、1種の塩基で中和されていても、2種以上の塩基で中和されていてもよい。また、2つのカルボキシル基をもつN-アシルグルタミン酸塩やN-アシルアスパラギン酸塩等はジ塩でもモノ塩でもよく、任意の中和度のものを用いてもよい。

【0017】本発明の成分(A)のアニオン界面活性剤において、必ずしもアニオン界面活性剤の全てを塩の形態で用いる必要はなく、未中和のアニオン界面活性剤との混合物として用いても良い。但し、未中和のアニオン界面活性剤のみでは、泡立たなくなるため、必ず一部は塩の形態で配合される。もちろん固形洗浄剤組成物を調製するとき、未中和のものを水酸化ナトリウムや水酸化カリウム等のアルカリで中和し、一部又は全部を塩の形態としても良い。未中和体の含有割合は、通常、未中和体/塩=1/1以下であり、好ましくは1/3以下である。未中和体の割合が大きすぎると泡立ちが悪くなる。

【0018】本発明に用いられる成分(B)の固形ワックスは、融点が40℃~120℃のものが用いられる。好ましくは50℃~100℃であり、特に好ましくは60℃~90℃である。固形ワックスの融点が低すぎる

と、液化しやすいため固形洗浄剤組成物の安定性、固形性が低下する。他方、融点が高すぎると、固形洗浄剤組成物を製造、加工する際に固形ワックスが十分に溶解せず、他の成分とのなじみが悪くなり、均一な固形洗浄剤組成物が得られにくい場合が生じる。

【0019】好適に用いられる固形ワックスを例示すれば、固形パラフィンワックス、セレシン、マイクロクリスタリンワックス等の炭化水素系固形ワックス、カルナウバロウ、キャンデリラロウ、ミツロウ等のロウ類等が挙げられる。これらの固形ワックスは単独で用いてもよく、2種以上を任意の割合で混合して用いてもよい。特に、上記に例示した炭化水素系固形ワックスが好ましい。マイクロクリスタリンワックスとしては日本精蠟株式会社のHi-Mic-1080、3090、1070、2065、1045等が挙げられる。

【0020】本発明に用いられる成分(C)の酸性アミノ酸及びその塩としてはグルタミン酸、アスパラギン酸及びこれらの塩が代表的なものとして挙げられる。これらの酸性アミノ酸及びその塩は夫々単独で用いてもよく、2種以上を任意の割合で混合して用いてもよい。特にグルタミン酸及びその塩が好ましい。これら酸性アミノ酸及びその塩はD体、L体、DL体を問わず用いることができる。このような酸性アミノ酸及びその塩の配合により、低湿度下でのひび割れを抑制するだけでなく、使用後の肌のしっとり感も改善することができる。これら酸性アミノ酸塩の塩としてはナトリウム塩、カリウム塩、マグネシウム塩等の金属塩、アルギニン塩、リジン塩、ヒスチジン塩等の有機塩を挙げることができる。特にナトリウム塩、カリウム塩が好ましく、ナトリウム塩が最も好ましい。酸性アミノ酸塩は1種の塩基で中和されていても、2種以上の塩基で中和されていてもよい。

【0021】成分(C)の酸性アミノ酸及びその塩において、用いる成分(C)はその全てが塩であってもよいし、全てを未中和の酸の形態で用いてもよく、任意の中和度に調整したものをを用いてもよい。もちろん固形洗浄剤組成物を調製するときに、未中和の酸を水酸化ナトリウムや水酸化カリウム等のアルカリで中和し、一部又は全部を塩の形態としても良い。但し、一部あるいは全部を酸として用いる場合、後述するように、固形洗浄剤組成物のpHが下がり過ぎないようにする方がよい。

【0022】本発明の固形洗浄剤組成物は低刺激性の観点から、pHを5.5~7.0とするのが好ましい。さらに好ましいpHは6.2~6.8である。また、pHが5.5未満では泡立ちの低下が著しくなり、7.0を超えるpHでは溶け崩れが起こりやすくなる。高級脂肪酸塩などの場合、pHを皮膚に温和な中性~弱酸性域に下げた場合、泡立ちが著しく低下するが、本発明における成分(A)のアニオン界面活性剤はこのようなpH域でも良好な泡立ちを示す。尚、本明細書で言う固形洗浄剤組成物のpHは固形洗浄剤組成物の1%水溶液(40

°C)のpHを意味している。

【0023】固形洗浄剤組成物を上記の好ましいpH範囲に調整するには、成分(A)のアニオン界面活性剤及び成分(C)の酸性アミノ酸塩の中和度を下げることによって行うことができる他、任意の酸又はアルカリを適宜配合することによって行うことができる。用いられる酸としては、成分(C)の酸性アミノ酸の他、クエン酸、酢酸、乳酸、リンゴ酸、p-トルエンスルホン酸、酒石酸、グリコール酸、ピロリドンカルボン酸等、塩酸、硫酸、リン酸、炭酸、硝酸等が挙げられ、アルカリとしては水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、アルギニン、リジン、ヒスチジン等が挙げられる。

【0024】本発明の固形洗浄剤組成物における成分(A)のアニオン界面活性剤の配合量は30~95重量%、好ましくは40~95重量%、更に好ましくは50~90重量%である。もちろんここに述べた数値は本発明におけるアニオン性界面活性剤の塩のみでなく未中和体も含んだ数値である。成分(A)のアニオン界面活性剤を50重量%未満とする場合、泡立ちや固形性を保つため他のアニオン界面活性剤を加え、アニオン界面活性剤の総量を50重量%以上とした方がよい。

【0025】本発明における成分(B)固形ワックスの配合量は、固形洗浄剤組成物において好ましくは2~20重量%、更に好ましくは3~10重量%である。2重量%より少ないと十分な固形性、溶け崩れ性の改善効果が十分得られない場合があり、他方、20重量%を超えると泡立ちが悪くなる。

【0026】本発明における成分(C)酸性アミノ酸及びその塩の配合量は、固形洗浄剤組成物において1~40重量%、好ましくは3~20重量%、更に好ましくは5~10重量%である。1重量%より少ないとひび割れの改善効果が十分得られない場合があり、他方、40重量%を超えると溶け崩れしやすくなる。

【0027】本発明の固形洗浄剤組成物において、本発明の効果を阻害しない範囲で通常使用される各種添加剤を添加することができる。例えば、セチルアルコール、ステアシルアルコール、ベヘニルアルコール、イソステアシルアルコール、オクチルドデカノール、オレイルアルコール、ミリスチルアルコール等の高級アルコール、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、硬化牛脂脂肪酸、ヤシ油脂肪酸、バーム油脂肪酸等の高級脂肪酸およびその塩、プロピレングリコール、ブチレングリコール、グリセリン、ソルビトール、トリメチルグリシン等の保湿剤、アニオン界面活性剤、カチオン界面活性剤、両性界面活性剤、非イオン性界面活性剤等の界面活性剤、植物油、動物系油脂、天然系油脂誘導体、鉱物系油脂、低級および高級脂肪酸エステル、N-アシルグルタミン酸エステル等の合成系油脂、シリコーン化合物、高分子物質、アルコール類、多価アルコール、動植物抽出物、アミノ酸、核酸、ビタミン、酵素、

抗炎症剤、殺菌剤、防腐剤、抗酸化剤、紫外線吸収剤、キレート剤、制汗剤、酸化染料、pH調整剤、パール化剤等の化粧品原料基準、化粧品種別配合成分規格、医薬部外品原料規格、日本薬局方、日本薬局外医薬品成分規格、食品添加物公定書等の各種公定書記載の原料等が挙げられる。

【0028】

【実施例】以下、実施例により本発明をさらに詳細に説明するが、本発明はこれらの実施例に限定されるものではない。

【0029】【固形洗浄剤組成物の調製】表1に示す配合組成の固形洗浄剤組成物を以下の方法により調製した。すなわち、固形成分をニーダーにより均一に混合した後、攪拌を続けながら徐々に液体成分を添加し、全体が均一になるまで攪拌を続ける。次に、混合した組成物を3本ロールにより更に混練し、必要に応じ、ロールを加熱または冷却し、均一なシート状とする。次に、シート状の組成物を押し出し機に押し出し、円柱状の石鹸とする。円柱状の表面が均一でなめらかにならない場合は、押し出し機を加熱または冷却し、押し出しを繰り返す。円柱状とした組成物を型打ち機により、通常の水の形に成型する。型から外れにくい場合は、必要に応じてアルコール等の離れ剤を型の表面に薄く塗ってから型打ちする。

【0030】【評価基準】

溶け崩れのなさ：各固形洗浄剤組成物5gを立方体に切り、水道水中に1時間浸漬し、溶け崩れの有無について評価した。評価は下記基準に従って10名のパネラーによって行い、10名の平均値により、4.0以下～3.*

* 5以上を◎；3.5未満～2.5以上を○；2.5未満～1.5以上を△；1.5未満を×とした。

4：ほとんど溶け崩れない

3：わずかに溶け崩れている

2：はっきりとした溶け崩れがみられる

1：かなりの部分が溶け崩れている

【0031】固形性：固形洗浄剤組成物の調製におい

て、型打ち機で成型して得られた固形洗浄剤組成物の状態を評価した。評価は下記基準に従って10名のパネラーによって行い、10名の平均値により、4.0以下～

3.5以上を◎；3.5未満～2.5以上を○；2.5未満～1.5以上を△；1.5未満を×とした。

4：非常に良好

3：良好

2：普通

1：不良

【0032】ひび割れのなさ：各固形洗浄剤組成物20gを立方体に切り、25℃恒温下、相対湿度30%RHの環境下で240時間保存した後、表面の様子を観察して評価した。評価は下記基準に従って10名のパネラーによって行い、10名の平均値により、3.0以下～

2.5以上を○；2.5未満～1.5以上を△；1.5未満を×とした。

3：ほとんどひび割れがみられない

2：わずかにひび割れがみられる

1：明確なひび割れがみられる

【0033】

【表1】

	比較例		実施例				
	1	2	1	2	3	4	5
ラウロイルグリシンNa ¹	90	75	80	75			
パルミトイルグリシンNa ¹					75		
ラウロイルアラニンNa ¹						75	
ヤシ油脂肪酸アシルグリシジ ¹ Na ¹							75
マイクロクリスタリンワックス ¹			10	10		10	10
セ レ シ ン					10		
ラ ウ リ ン 酸		10					
セ タ ノ ール		5					
Ｌ－グルタミン酸Na				5	5	5	5
ク エ ン 酸	適量	適量	適量	適量	適量	適量	適量
精 製 水	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余
溶 け 崩 れ の な さ	×	△	◎	◎	◎	◎	◎
固 形 性	×	○	◎	◎	◎	◎	◎
ひ び 割 れ の な さ	×	△	△	○	○	○	○
pH	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5

注)

* 1：日本精蠟株式会社製「Hi-Mic-1080」：融点83℃

【0034】下記の配合組成に従い、固形洗浄剤組成物を製造した。得られた固形洗浄剤組成物は、溶け崩れの

なさ、固形性、ひび割れのなさがいずれも良好であった。また、使用時のきしみ感、使用後の肌のかさつき感

もなく、使用時のさっぱり感、泡の粘り・こし及び使用 * のであった。
後の肌のしっとり感も良好であり、使用感にも優れるも* 【0035】

(配合組成-1)

	(重量%)
N-ヤシ油脂肪酸アシルグリシンナトリウム	45
N-ミリスチルグリシンナトリウム	5
N-ヤシ油脂肪酸アシルアラニンナトリウム	5
ヤシ油脂肪酸ナトリウム	5
マイクロクリスタリンワックス	10
クエン酸	7
EDTA・2Na	0.2
酸化チタン	0.1
ヒノキチオール	0.1
メチルパラベン	0.1
着色剤	適量
精製水	残余

【0036】

(配合組成-2)

	(重量%)
N-ラウロイルグリシンナトリウム	45
N-ステアロイルアラニンナトリウム	20
セレシン	15
ピログルタミン酸	8
セタノール	2
EDTA・2Na	0.2
酸化チタン	0.1
グリチルリチン酸ジカリウム	0.1
トリクロサン	0.1
着色剤	適量
精製水	残余

【0037】

(配合組成-3)

	(重量%)
N-ミリスチルアラニンナトリウム	35
N-ステアロイルグリシンナトリウム	35
マイクロクリスタリンワックス	10
セレシン	5
グリセリン	3
カラメル	0.2
EDTA・2Na	0.2
酸化チタン	0.1
ジブチルヒドロキシトルエン	0.1
クエン酸	7
着色剤	適量
精製水	残余

【0038】

【発明の効果】本発明によれば低刺激性で、固形性に優

れ、溶け崩れが起こりにく、更には低湿度下でもひび割れが生じにくい固形洗浄剤組成物を得ることができる。